

非著名寺院の開創伝承

竹田聴洲

—天正一一年河内加納村水帳について—  
初期真宗における門徒名帳の一例

史話』が刊行されている。「京阪神のあけぼの」にはじまり、「中世の京阪神」「京阪神の社寺」「大阪商人」「上方風物誌」の各章に分つて、多数の筆者により平易に述べられている。先生の業績の一つは古社寺の研究、歴史地理学の、いわゆる「歩く歴史」にあつたことを思えば、この刊行は、まことに先生古稀記念と追悼にふさわしい、そしてこの種記念事業にあつては誠にユニークな企画であるといえよう。併せて紹介をしておく。

幕末維新时期における岡山藩の兵制改革

谷口澄夫

廻漕会社の興廢

宮崎円遵

刈谷藩に関する研究と表題しているが、刈谷藩それ自体の研究ではない。それは恐らく夭逝した著者の窮局の研究目標であつたのであろう。遺稿の編者は名古屋大学の重松久久氏。研究篇八四頁・史料篇二二二頁・物価篇七〇頁の三部からなつてゐる。

樽廻船輸送の海損分担

津川正幸

並河誠所の学問と実践

宮本又次

武藤 誠

文政段階における種物及び油に関するいわゆる「国訴」について

津田秀夫

—史蹟踏査と建碑の事蹟について—  
芦屋市会下山・城山遺跡調査概要

村川行弘

古稀記念と追悼にふさわしい、そしてこの種記念事業にあつては誠にユニークな企画であるといえよう。併せて紹介をしておく。

—近世後期の紋油業の展開と幕府の油業統制(その二)—

禿氏祐祥

古代の人名についての覚書

村山修一

八木哲浩

五部大乗経と小蔵四大部

友田吉之助

尼崎藩の銀札

山中寿夫

八頁頒価二、五〇〇円・「京阪神史話」新書判・吹田市千里山関西大学日本史研究室内魚

大化前代における美濃について

直木孝次郎

—鳥取藩の請免制をめぐる—  
大化前代の播磨

横田健一

澄先生古稀記念会刊) (熱田 公)

大垣廻し

永島福太郎

門人村上潔夫と殿村安守

吉井良尚

四天王寺楽人の社会的地位

林屋辰三郎

佃経營に関する二・三の問題

吉田 晶

和泉国近木荘

福尾猛市郎

近世における白山麓の出作り関係史料

宇野幸男著

—惣的結合への方向を中心として—

藤井 駿

—白峰村のむつし文書を中心として—

若林喜三郎

刈谷藩に関する研究と表題しているが、刈谷藩それ自体の研究ではない。それは恐らく夭逝した著者の窮局の研究目標であつたのであろう。遺稿の編者は名古屋大学の重松久久氏。研究篇八四頁・史料篇二二二頁・物価篇七〇頁の三部からなつてゐる。

兵庫の文学

古田良一

中世禅僧の宋学観

和島芳男

防長のおちい達

松岡利夫

近世中期における地方商人の生活

渡辺則文

—藩政下次三男の境涯—

松岡久人

—安芸国竹原下市を中心として—

氏。研究篇八四頁・史料篇二二二頁・物価篇七〇頁の三部からなつてゐる。

田堵の性格について

宮川 満

なお右論文集とともに、新書判の『京阪神

初期太閤検地の一性格

宮川 満

なお右論文集とともに、新書判の『京阪神

## 学界消息

### 史学研究会関係

史学研究会一〇月例会

一〇月三日(土) 午後一時

於京都大学文学部第一教室

アメリカ革命と農民運動 今津 晃氏

社会運動としてみた米騒動 渡部 徹氏

### 国史関係

読史会例会 (いずれも於陳列館演習室)

七月一日(土) 午後一時

明治三十年代の労働運動 山本 四郎

文化史と唯物史観 三品 彰英

九月一二日(土) 午後一時

興福寺莊園に關する一考察 熱田 公

一〇月一〇日(土) 午後一時 杉井 六郎

明治後期における資本主義の発展

鈴木 良

畿内古社寺の古文書・古書の調査 堀池 春峰

### 東洋史関係

旧制大学院会例会

である。江戸時代の北風家は説明するまでも

ない著名の豪商、問屋であつたが、維新の変

動に対処するをえず、明治一八年に没落し

た。この日誌は明治三年一〇月朔日より九年

四月二四日にわたつており、その一カ月後に

筆者喜多氏は急死した。原因は明らかでない

が、五月一日に金融蹶跌して北風家が休業の

止むなきに至つているので、或はそれと関係

あるかも推測されている。内容は、簡単な

メモ形式で、加えて公私混淆して記入されて

いるため、この時期の北風家にかんし何らか

のまとまつた資料をえようとするのは困難で

ある。が、通商司・為替会社・加賀藩兵庫製

鉄所等々についてのさまざまな事実が記され

ているので、それらの研究には一読の価値も

あろうか。ビール・シャンパン・ヒール・ニウ

ルスベエハ(新聞)だのコーヒーの到来、そ

れに兵庫で始めて(?)の牛肉のすきやき会

といった文明開化期の社会風俗を知る資料も

多い。

(昭和三四年六月刊、A5判三三二頁、頒価

四〇〇円、神戸市兵庫区永沢町四ノ二四石阪

孝二郎) (朝尾直弘)

研究篇は、「元文三年の刈谷領徒党強訴」

「幕末刈谷領情勢」「嘉永六年(一八五四)の

重原代官所」「譜代の研究」の四論文をおさ

め、史料篇は、大別して刈谷町方関係文書・

元文三年刈谷藩領徒党強訴一件・安政六年刈

谷藩財政関係史料およびその他雑文書に分つ

ことができる。物価篇は、宝暦六年から明治

二年までの刈谷町の物価の変動を、白米・黒

米・糯米・黒糯米・春麦・大豆・小豆・燈油・

有明油・胡麻油・魚油・酒・銭の一三種につ

いて明らかにしたもので、地方物価の動きを

系統的に知りうる数少ない資料の一である。近

世経済史の底辺をなす基礎的作業であり、筆

者個人としてはこの部分に最も興味をひかれ

た。

(A5判二八五頁、昭和三四年五月刊)

(朝尾直弘)

石坂孝二郎編

兵庫津北風家惣支配役

喜多文七郎日誌

紹 喜多文七郎は兵庫北風家の明治初年におけ  
る金方役、のち昇進して惣支配役を勤めた人